

茅ヶ崎市民活動サポートセンター

市民立の太陽光発電所を設置

主体はちがさき自然エネルギーネットワーク 7月5日(日)に点灯式

市民団体の活動場所である茅ヶ崎市民活動サポートセンター(茅ヶ崎3-2-7)の屋根に太陽光発電所(7・77kW)が設置される。設置を行うのは自然エネルギーの普及啓発に取り組む「ちがさき自然エネルギーネットワーク(REN)」だ。7月5日(日)の点灯式に合わせて完成を目指している。



市民団体の拠点場所である茅ヶ崎市民活動サポートセンター。太陽光発電所が完成すれば年間従量電力の約3分の1を賄える

茅ヶ崎市内で太陽光発電設備がある公共施設は、秋園ヶアセンターや第一中学校、元町ヶアセンターなどがある。いずれも市主体や寄付により設置した。市民団体が主体となり、太陽光発電所を設置するのは市内

では初の試みとなる。同ネットワークはこれまで温暖化防止を目的に、講演会やワークショップ、小学校への出前講座などを行ってきた。今年度は茅ヶ崎市が進める「協働推進事業」の協働団体にも選ばれてい

る。上野ひろみ代表は「市民活動の拠点となるサポートセンターを選んだのは市民への周知につながるから。省エネの大切さを知ってもらいたい」と設置目的を明かしている。

設置費用には(財)広域関東圏産業活性化センター(GIAC)の自然エネルギー普及を目的とした「グリーン電力基金(地域協働プロジェクト)」からの助成金などが充てられている。

年間予測で8060kWhの発電量、18万5380円の電気料金を算出。サポートセンターの従量電力は年間2万3556kWh(平成20年)なので、完成すれば約3分の1の従量電力を賄える形となる。

2号機も視野に

太陽光発電で生み出した電気料金は茅ヶ崎市内に納められ、「茅ヶ崎市ふるさと基金」へ。市はその基金

をもとに2号機の設置を目指しているという。

7月5日の点灯式は関係者を招き、ソーラークッカーで炊いた赤飯を参加者に振舞う予定。「市やサポートセンターの皆さんの協力でここまで出来た。設置だけで終わるのではなく、自然エネルギーを市民に普及するための持続可能な仕組みにしていきたい」と上野代表は意欲を見せている。現在、同ネットワークは設置のための寄付金を募集している。一口1000円から締切は6月20日(土)。

詳細は同ネットワークHP <http://www.i-shimin.net/ren/kkpc>

